



《共通事項》

◆生育状況及び当面する重点作業について

1. 管内の生育状況 満開日

品目	品種	令和5年	令和4年	備考
プルーン	くらしま		4月13日	
アンズ	新潟	3月26日	4月 9日	
梨	南水		4月16日	

2. 果樹試験場の生育状況

品目		平年	元年	2年	3年	令和4年	令和5年
信州大実	発芽	4月 6日	4月 8日	4月 1日	3月29日	測定無し	3月25日
	開花	4月 9日	4月 6日	3月22日	3月25日	測定無し	3月27日
ソルダム	発芽	3月31日	4月 4日	3月20日	3月20日	3月29日	3月17日
	開花	4月14日	4月14日	4月 1日	3月31日	4月10日	3月29日
川中島白桃	発芽	3月30日	3月26日	3月19日	3月22日	4月4日	3月23日
	開花	4月20日	4月20日	4月15日	4月5日	4月17日	

3. 晴天が7日以上続いたら20～30℃のかん水を定期的に行い、初期生育を順調に進めることが重要です。また、敷きワラについては 晩霜の心配がなくなってくる5月末より梅雨前までに“樹冠下に敷きワラ”を行う。

4. 性フェロモン剤の設置を適期実施する。

◆ナシヒメコン・コンフューザーN・スカシバコン設置について

1. 設置方法は、資材と一緒に配布される説明書によって、適期に設置を行う。
2. 屋際等で生育の早い園地は、越冬成虫の発生も早いので早めに設置する。
3. プルーン・すもも生産者は、ナシヒメコンの第2期設置分を、梨の生産者は、コンフューザーNを配布されても、設置時期まで密封したまま、冷暗所(5℃以下)に保管して下さい。

《プルーン・すもも》

◆第3回薬剤散布の実施について

1. 散布時期…4月22日(土)～4月30日(日) 実際散布日記入 月 日

2. 調合量…水100ℓ 当り

- 展 着 剤 … 10ml
- (アプロードフロアブル) …100ml (ウメシロカイガラムシ)
- ⑩モスピラン顆粒水溶剤……50g (シンクイムシ類・アブラムシ類)
- (アグレプト水和剤)……100g (黒斑病)

3. 散布量…10a当り400ℓ 以上

4. 留意事項

- ①降雨が多い場合は腐敗病防除として、ロブラール水和剤 1,500倍(水100ℓ 当り 66g・収穫前日まで)を加用散布する。
- ②カイガラムシの発生が多い場合は、アプロードフロアブル 1,000倍(水100ℓ 当り 100ml)を加用または特別散布する。
なお手散布で枝・幹部にしっかりと薬液をかける。
- ③黒斑病の発生が心配される場合はアグレプト水和剤 1,000倍(水100ℓ 当り 100g)を加用散布する。特にスモモは被害が多いので注意する。

- ④アグレプト水和剤に代えて、アグリマイシン100の1,500倍(水100ℓ当り66g)を使用しても良い。
- ⑤モスピラン顆粒水溶剤はミツバチ等の訪花昆虫に影響が出るので、周囲や時間(ハチの飛びにくい早朝散布)に注意して散布する。
- ⑥通常の展着剤に代えて固着性展着剤アピオンE1,000倍(水100ℓ当り100ml)を使用すると効果が持続する。

◆第4回薬剤散布の実施について

- 1. 散布時期・・・5月3日(水)～5月9日(火) 実際散布日記入 月 日
- 2. 調合量・・・水100ℓ当り

展 着 剤・・・ 10ml
 〔 ①ダイアジノン水和剤 34・・・ 100g (シンクイムシ類・収穫14日前まで) 〕

- 3. 散布量・・・10a当り ⇒ 400ℓ以上
- 4. 留意事項
 - ①ダイアジノン水和剤に代えて①スプラサイド水和剤の1,500倍(水100ℓ当り66g)を使用しても良い。雨が nhiều 場合は、マイコシールド2,000倍(水100ℓ当り50g)を加用散布する。
 - ③りんご(生理落果)やもも・ネクタリン(葉葉害)に農薬飛散しないよう十分注意する。

◆あら摘果について

摘果は早いほど果実肥大はよいが、第2期の生理落果(不授精による)が開花後2～4週間後にあるため、実止まりを確認してから実施するのが基本。

さらに第3期の生理落果が6月にあり(果実相互、果実と枝葉の養分競合による)、摘果が遅れるとさらなる生理落果につながるため、遅れないように実施する。

着果量の多い品種(スタンレイ・ツアー等)や、結実良好であった品種、樹勢の弱い樹等は、予備摘果に重点を置く必要がある。

くらしまプルーンは、不受精果が判断できるようになったら、早期に摘果する。

- 1. 時 期(満開後30日後ごろ、小指大の時。)
 - すもも(貴陽) ⇒4月下旬～5月上旬頃(平坦部)、プルーン(スタンレイ) ⇒5月上中旬頃(平坦部)
- 2. 程 度
 - ①樹勢の弱い樹・・・・・・2年枝の摘果を行い、果実肥大に努める。
 - ②生理落果<少>品種・・・あら摘果に重点(仕上げ摘果の2割り増し程度残す)を置き、仕上げは軽度にする。(スタンレイ、アーリーリバー、ペイラー、ソルダム等)
 - ③生理落果<多>品種・・・あら摘果は軽度(仕上げ摘果の3～4割程度多めに残す)にし、2年枝を中心に摘果する。(グランドプライズ、トレンジィ、サンタローザ等)
- 2. 方法(受精した果実は緑色が強く、不受精果は黄緑色を呈する。)
 - ①緑色で正常な果実を残す。病虫害果・奇形果・小玉果・障害果などを落とす。
 - ②下から横向きの果実を残す。上向き果は、風による障害・日焼等で果皮が荒れやすいので落とす。

◆プルーン・すももの花肥施用について

- 1. 施肥時期・・・4月中下旬
- 2. 施用資材・施用量・・・有機専科10a当り2袋(ノルチツソ1袋を施用しても良い。)
- 3. 留意事項・・・樹齢及び着果状態を確認し施肥量を加減する。
 樹勢の弱いやすいスタンレイなどは多めに施用する。
 降雨に合わせるか施肥の前にかん水を行い吸収しやすい状態にする。

◆すもも「シナノパール」を「麗玉」で出荷希望の生産者の皆様へ

「麗玉」の振興協議会の会員になっている方は、高品質な「シナノパール」を「麗玉」として販売することができます。「麗玉」で出荷をするためには糖度18度保障が必要になりますので、「非破壊糖度計」を用いて糖度検査を行うことが必要となります。

そこで非破壊糖度計「おいし果」を貸し出します(使用料については検討中)
 栽培の相談も含めて糖度計借り受け希望者は果樹技術員まで連絡ください。

《あんず》

◆摘果講習会開催について

下記により、杏の摘果講習会を開催致しますのでご参集ください。

開催日	曜	集合時間	集合場所	担当
4月21日	金	午前 9:30	萩原久光様園(松代城跡西) 場所が不明な方は松代総合センターへ 午前9時20分までに集合	松橋
		午前 11:00	小野益一様園 (東条)	松橋

※新型コロナウイルス対応のためマスク持参をお願いします

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期…4月20日(木)～4月26日(水)頃(落花15日後頃) 実際散布日記入 月 日
生育が早まった為と凍霜害の被害があった為、早めの散布をお願いします。

2. 調合量…水100ℓ 当り

- ソ ー ゲ ン …200g (ほう素欠乏対策用葉面散布肥料)
- ストロビードライフフロアブル… 50g (黒星病・うどんこ病)
- ㊦スカウトフロアブル …… 50ml (アブラムシ類)

3. 散布量…10a当り400ℓ

4. 留意事項

- ①昨年、かいよう病の発生が見られた園は、マイコシールド1,500倍(水100ℓ 当り66g)を加用散布する。
- ②黒星病の防除はこの時期がもっとも重要。(加工でも病害果は荷受けできない。)
- ③花カスを飛ばすようなつもりで散布を行う。はかま(がく筒)が残ると、灰星病やサビ果等の要因になる。
- ④殺虫剤が入るのでミツバチ等引き上げ後に実施する。
- ⑤凍霜害の被害後は葉面散布肥料の使用を控えているが、ソーゲンは散布しても良い。
また500倍は重さで200g=容積で158mlとなる。

◆(特) 薬剤散布について

1. 散布時期…第4回散布 10日後に必ず散布 実際散布日記入 月 日

2. 調合量…水100ℓ 当り

- 展 着 剤… 10ml
- ロブール水和剤… 66g (灰星病)
- ㊦オリオン水和剤…100g (アブラムシ類・ケムシ類・カイガラムシ類)

3. 散布量…10a当り400ℓ 以上

4. 留意事項

- ①生育が早いため定期散布とする。
- ②アブラムシが見られる場合は、㊦モスピラン顆粒水溶剤4,000倍(水100ℓ 当り25g・年2回以内)を特別散布する。
- ③うどんこ病の発生が心配される場合はフルーツセイバー1,500倍(水100ℓ 当り66ml)を加用散布する。

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期…5月10日(水)～5月15日(月) 実際散布日記入 月 日

2. 調合量…水100ℓ 当り

- ソ ー ゲ ン …200g (ほう素欠乏対策用葉面散布肥料)
- アンビルフロアブル…100ml (黒星病)
- ㊦モスピラン顆粒水溶剤… 25g (アブラムシ類)

3. 散布量・・・10a当り400ℓ 以上

4. 留意事項

- ①少雨で乾燥するとホウ素欠乏が発生しやすくなる。かん水を行うとともに葉面散布剤の散布を行う。
- ②モスピラン顆粒水溶剤に代えてコルト顆粒水和剤 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50g)または
③イカズチWDG 1,500 倍(水 100ℓ 当り 66g)を使用しても良い。

◆ほう素欠乏と言われる果面障害果

- ・ほう素欠乏対策として葉面散布 (ソーゲン500倍) を実施しているが、毎年のように発生する。
- ・春先に雨が少ない場合、発生は多くなる傾向。



《うめ》

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期・・・4月15日(土)～22日(土)頃 実際散布日記入 月 日

※殺虫剤が入っているので訪花昆虫引き上げ後に散布する

2. 調合量・・・水100ℓ 当り

- 展着剤・・・10ml
- オンリーワンフロアブル・・・50ml (黒星病)
- ④モスピラン顆粒水溶剤・・・25g (アブラムシ類)
- マイコシールド・・・66g (かいよう病/収穫21日前まで)

3. 散布量・・・10a当り500ℓ 以上

4. 留意事項

- ①マイコシールドは、収穫21日前までの使用となっているので散布日に注意する。
- ②黒星病の伝染が始まる大事な防除時期であるので、たっぷりと丁寧に散布する。

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期・・・4月29日(日)～5月6日(土)頃 実際散布日記入 月 日

2. 調合量・・・水100ℓ 当り

- 展着剤・・・10ml
- イオウフロアブル・・・200ml (黒星病)
- ④バリアード顆粒水和剤・・・25g (収穫前日まで/アブラムシ類)

3. 散布量・・・10a当り500ℓ

4. 留意事項

- ①バリアード顆粒水和剤はミツバチ等に影響が出るので、引き上げ後に散布を行う。
- ②カイガラムシの発生が多い場合は、アプロードフロアブル1,000倍(水100ℓに100ml・収穫7日前まで)を加用散布する。

◆第4回薬剤散布について〔中梅・大梅〕

1. 散布時期・・・5月13日(土)～20日(土) 実際散布日記入 月 日

2. 調合量・・・水100ℓ 当り

- 展着剤・・・10ml
- イオウフロアブル・・・166ml (黒星病)

3. 散布量・・・10a当り ⇒ 500ℓ

2枚目に続く

4. 留意事項

アブラムシの発生が多い場合は、㊸バリアード顆粒水和剤4,000倍(水 100ℓ 当り 25g・収穫前日・年 2 回以内)又はダントツ水溶剤4,000倍(水 100ℓ 当り 25g・収穫前日・年 3 回以内)を加用散布する。

《あんず・うめ共通事項》

◆梅・杏の摘果について

1. 凍霜害の被害が心配される園では、実止まりが確認できるまで摘果作業を遅らせる。
2. 杏は満開後18日～28日頃が適期。本年は4月中旬～下旬頃からが適当と思われる。
3. 満開後25日以降は果実が重なり、果梗も硬くなり摘果がしづらくなってくる。
4. 梅の豊後については、生理落果終了後に行う。

◆梅・杏の花肥(追肥)施用について

1. 施肥時期・・・4月中旬
2. 施用資材・施用量・・・有機専科10a当り2袋(ノルチツソ 1 袋を施用しても良い。)
 - ※樹齢及び着果状態を確認し施肥量を加減する。

◆枝枯れの処理について

1. 花かすが落ちにくい場合、花腐れが発生しやすい。落花直後の薬剤散布徹底をする。
2. 枝に花カスが残る樹脂が出ている症状の樹では、発見次第切り取り焼却するか埋める。⇒ 切り取った枝を園地に残すと、収穫果の灰星病の発生につながるので注意する。

《オウトウ》

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期・・・落花直後 実際散布日記入 月 日
2. 調合量・・・水100ℓ 当り
 - 〔展着剤・・・ 10ml
 - 〔ベルコートフロアブル・・・ 50ml (灰星病)
3. 散布量・・・10a当り400ℓ
4. 留意事項
 - ①花弁を飛ばすように散布する。
 - ②ベルコートフロアブルに代えて、フルーツセイバー1,500倍(水 100ℓ 当り 66 ml) を使用してもよい。

◆第4回薬剤散布について

1. 散布時期・・・前回から2週間後 実際散布日記入 月 日
2. 調合量・・・水100ℓ 当り
 - 〔ベルコートフロアブル・・・ 50ml (灰星病)
 - 〔㊸ダイアジノン水和剤・・・100g (ケムシ類・カイガラムシ類)
3. 散布量・・・10a当り500ℓ
4. 散布上の留意事項
 - ①炭疽病の発生が心配される場合は、オーソサイド水和剤800倍(水 100ℓ 当り 125g・収穫3日前まで)を特別散布する。但し、果面の汚れには十分注意する。

◆オウトウの摘果について

1. 摘果の時期は、不受精果などの生理落果が終わる満開3～4週間後までに行う。
2. 1花束状短果枝当り2～3果程度残し、日当りの良い上枝では2果程度残す。

◆オウトウの新梢管理について

着果数が少ない樹は、新梢の発生が旺盛になるので、こまめに摘心を実施する。

1. 摘心時期…満開後3～4週間までに行う。(5月上旬頃が目安)
尚、早いと再伸長しすぎ、遅いと葉芽ができなくなる。
2. 摘心方法…新梢の基部1～2cm(5葉くらい) 残して切る。遅れた場合はやや長めに残す。摘心する新梢は、側枝延長枝と競合するものや側枝の背面から発生する強いものとする。

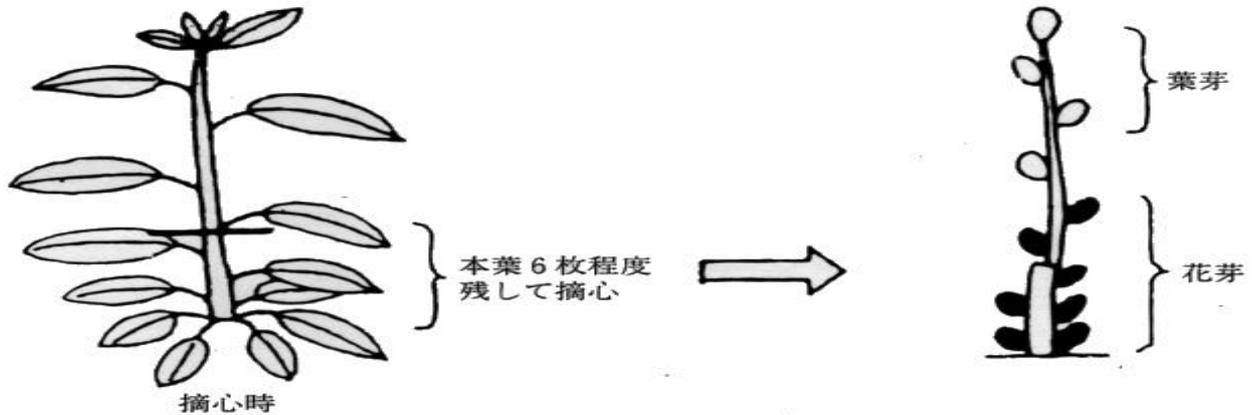


図2 摘心の方法

《なし》

◆第3回薬剤散布について

1. 散布日… 落花直後(花が8割位散った時が目安となる。) 実際散布日記入 月 日
2. 調合量…水100ℓ 当り

- (展着剤)… 10ml (日本なしは加用する。)
- オンリーワンフロアブル… 50ml (黒星病・黒斑病・赤星病)
- Ⓜモスピラン顆粒水溶剤… 50g (アブラムシ類)
- ベンレート水和剤… 50g (心腐れ症)

3. 散布量…10a当り 棚栽培300ℓ/立木栽培350ℓ 以上

4. 留意事項

- ①この時期の西洋ナシはサビ果が発生しやすいので、乳剤・展着剤は使用しない。
- ②南水でナシミハバチの発生が多い場合は、アーデントフロアブル2,000倍(水 100ℓ 当り 50ml)を使用しても良い。なおミツバチ等にかからないよう十分注意する。
- ③ナシキジラミの発生がみられる場合は果樹技術員まで相談する。
アブラムシの被害と酷似しているが、モスピラン顆粒水溶剤では効果が低い。
- ④モスピラン顆粒水溶剤はミツバチ等に影響があるので注意する。
ミツバチ等がいないう時期・時間(早朝)で散布を行う。
ミツバチへの影響が心配される場合は、モスピラン顆粒水溶剤に代えてウララDF4000倍(水 100ℓ 当り25g)を使用しても良い。
- ⑤心腐れ症が心配される場合はベンレート水和剤2000倍(水 100ℓ 当り50g)を加用してもよい。

◆第4回薬剤散布の実施について

1. 散布時期…前回散布14日後 実際散布日記入 月 日
2. 調合量…水100ℓ 当り

- (展着剤)… 10ml (日本なしは加用する。)
- トレンックスフロアブル…200ml (黒斑病・黒星病・赤星病)

3. 散布量…10a当り 棚栽培400ℓ/立木栽培450ℓ 以上

4. 留意事項

- ①この時期の西洋ナシはサビ果が発生しやすいので、乳剤・展着剤は使用しない。

- ②今回から3回スピットⅡ500倍(水 100ℓ に 200g)を加用散布すると、サビ果・葉焼けが軽減できる。
- ③黒星病の発生が心配される場合はトレノックスフロアブルに代えて、スコア顆粒水和剤3,000倍(水 100ℓ 当り33g)を使用してもよい。

◆梨の花肥施用について

1. 施肥時期・・・4月中旬
2. 施用資材・施用量・・・有機専科10a当り2袋(ノルチツソ1袋を施用しても良い。)
3. 留意事項・・・樹齢及び花芽やせん定の状況を確認し施肥量を加減する。
降雨に合わせるか施肥の前にかん水を行い吸収しやすい状態にする。

◆摘花の実施について(西洋ナシ・日本なし共通)

1. 摘蕾できなかつたら摘花を実施する。
2. 花そう葉のない花(無着葉花そう)、子持ち花の子花はすべて摘み取る。
3. 主枝や側枝の先端部や2年枝の腋芽花はすべて摘み取る。

◆南水の予備摘果実施について

1. 南水は満開14日後～20日後までに1果そうに1果とする。
2. 整形で果柄が長く、できるだけ大きな果実を残す。**3、4番果を残す。**
あら摘果の段階では1番果が最も大きいので、2番目に大きい果実(1番果の隣に位置する果実)を残すとおおむね3、4番果になる。摘蕾、摘花で後半の番花を整理してある場合は果柄の長い果実を残すと3、4番果になる。
なお、凍霜害の被害がある場合は5～6番果も使用して数量を確保する。
3. 必ず短果枝に着果させる。
4. 果台が横向き、または斜めの果台の果実を残す。
5. 着果させない果そう
 - ①2年枝の果そう(えき芽果)⇒条溝果、低糖度果、小玉果
 - ②無着葉果そう⇒肥大不良
 - ③果台が上向きの果そう⇒軸折れ、枝ずれ、日焼け果
 - ④果台が下向きの果そう⇒肥大不良

◆南水栽培講習会の開催について

下記により講習会を実施しますのでご参集ください。

開催日	曜	開催時間	開催場所	担当
4月11日	火	午前 9:30	小山英壽様園 (真島)	外谷
		午前11:00	高橋正治様園 (東福寺)	外谷

講師 長野農業農村支援センター畔上普及指導員

※新型コロナウイルス対応のためマスク持参をお願いします

◆南水の新梢管理について

1. 剪定の切り口から不定芽が発生するので、主枝の赤道面より上側の芽は手で除芽する。
(赤い芽のうちに行う。)
2. 主枝先端が花芽の場合、2本程度の副芽が出るので早うちに1本にする。

◆西洋ナシ適正摘果について

1. 予備摘果
 - ①予備摘果の時期
 - ・受精が確認される満開後10～15日頃から始め、満開後30日以内に終了する。
早いほうが果実肥大によい。
 - ・ラ・フランスが終わり次第、他の品種に取りかかる。

